

越前おおの城築城430年祭・時空行列

艶やかに! 勇ましく!

いにしえ
城下町が古にタイムスリップ



主な内容

9月定例会の概要	2ページ
一般質問	3~8ページ
9月定例会審議結果	9ページ
常任委員会審査	10ページ
委員会行政視察報告	11ページ
各委員会報告	12ページ

おおの 議会だより

No.169 平成22年10月25日

発行：大野市議会
〒912-8666 福井県大野市天神町 1-1
Tel 0779-66-1111 Fax 0779-65-3021
<http://www.city.ono.fukui.jp/>
編集：議会だより編集委員会

9月 定例会市議会の概要

第三七〇回定例会市議会は、九月六日から九月二十四日までの十九日間の会期で開催されました。今定例会では、平成二十二年大野市一般会計補正予算案をはじめとする十四議案、そして皆さんから提出された請願一件・陳情三件のほか、七月定例会から継続審査となっていた陳情四件について審議しました。

各議案等の審議結果は、九ページに掲載しています。

主 議 案

条 例

○大野市中山間地域農村活性化施設設置条例の全部を改正する条例（議案第六十一号）

（主な内容）

大野市中山間地域農村活性化施設「スターランドさかだに」について、指定管理者制度による管理・運営を可能とするため、必要な条項が加えられ、条例の全部が改正されました。

午前九時から午後五時まで、休館日が毎週水曜日および年末年始（十二月二十九日から一月三日）と定められました。



スターランドさかだに

予 算

▼二十二年一般会計補正予算（第二号）（議案第五十三号）

今回の補正では、本年三月に設置された農業農村振興基金を活用し、農産物を加工・販売する団体等を支援する農産物加工販売支援事業に九百万円、イベント開催時に託児サービスを実施するための備品を学びの里「めいりん」に整備するイベントキッズナーサリー整備事業に四十八万五千円、九頭竜スキー場の中古圧雪車購入に千五百万円が計上されたほか、合宿者の大幅増加が見込まれる学生合宿誘致事業に四百万円が追加されました。

また十月からの新型インフルエンザワクチン接種事業の実施に当たり、低所得者の負担軽減対策として七百六十一万八千円、電柱移転に伴う和泉情報通信施設の光ファイバーケーブル移設工事に二百六十万円が計上されたほか、市道の舗装補修工事や七月の豪雨により被災した

予 算

林道の復旧工事に係る経費など、総額で一億千八百四十五万円が追加され、予算の累計は百七十八億千八百九十二万八千円となりました。



学生合宿の様子

▼二十二年特別会計補正予算（議案第五十四号、六十号）

今回の補正は、各会計の前年度決算に伴う繰越金の処理が主なものですが、国民健康保険事業では、退職被保険者の増加などに伴い、退職被保険者等高額療養費として千八百万円などが追加されました。簡易水道事業では、中部縦貫自動車道の建設

そ の 他

▼大野市道路線の認定及び廃止について（議案第六十二号）

九路線が認定、四路線が廃止されました。

市道認定九路線のうち、宅地の開発行為や中部縦貫自動車道整備に伴うものなど新規認定が五路線、また起終点の変更に伴うものが四路線です。

▼高規格救急自動車売買契約の締結について（議案第六十三号）

高規格救急自動車一台および装備品・積載品一式とその装備に係る費用として二千三百九十四万円の契約を締結するものです。

高規格救急自動車とは、救急救命士による高度な処置が行える資機材を積載した救急車をいいます。

今回補正のあった特別会計の補正額と補正後の累計額

会計	補正額	補正後累計額
国民健康保険事業	1,847万4,000円	38億6,393万9,000円
老人保健	144万9,000円	275万6,000円
後期高齢者医療	178万6,000円	3億7,271万6,000円
介護保険事業	3,806万4,000円	32億5,266万1,000円
簡易水道事業	2,533万8,000円	1億9,249万4,000円
農業集落排水事業	2,180万2,000円	3億4,421万5,000円
下水道事業	500万円	10億5,401万4,000円

に伴う水道管移動に係る経費、また下水道事業では、下水処理センター維持管理の包括業務委託に係る経費が計上されました。

審 議 日 程

◆9月

- 6日 本会議(会期の決定、議案上程・提案理由の説明)
- 7日～12日 休 会
- 13日 本会議(一般質問)
- 14日 本会議(一般質問、決算特別委員会の設置および委員の選任、請願・陳情上程、各案件委員会付託) 決算特別委員会
- 15日 常任委員会(産経建設)
- 16日 常任委員会(民生環境)
- 17日 常任委員会(総務文教)
- 18日～20日 休 会
- 21日 特別委員会(中部縦貫自動車道・国道158号整備促進、議会等改革)
- 22日～23日 休 会
- 24日 常任委員会(3委員会) 本会議(各委員長報告・質疑・討論・採決、特別委員長報告、追加議案上程・採決)

一般質問

今回は十議員が、市長から提出された議案や市政全般について質問を行いました。

9月13日(月)					日程	
新国会 畑中章男 議員	日本共産党 榮 正夫 議員	創造みらい 石塚淳子 議員	清新会 高岡和行 議員	新国会 前田政美 議員	質問事項 ① 中心市街地活性化基本計画について(四三〇年祭以降) ② 行政力と市民力のかかわりについて ③ 議員の政党機関紙の購読について	質問者 頁 3頁
① 国保会計について ② 行政改革について ③ 地下水保全管理計画について	① 農業問題について ② 第五次大野市総合計画基本構想について ③ まちなか循環パスの運行の変更について	① 民生委員・児童委員について ② 健康づくりの推進について ③ 安全で安心な雪国づくりについて	① 予算編成について ② 雇用拡大について ③ 大野城築城四三〇年祭について	① 市民力・地域力の醸成に ② 旧和泉村との合併から五年、今日時点の課題整理を求める	① 県による将来ビジョン・素案と大野市総合計画基本構想案に関して ② 昨年来続いていた主な流雪講の流量調査の結果について ③ ステーションと近隣の観光施設へのアクセス拡大において旧法務局建物の位置づけをどう考えているのか	5頁 5頁 4頁 4頁 3頁
9月14日(火)					日程	
日本共産党 新家竹雄 議員	公明党 藤堂勝義 議員	日本共産党 浦井智治 議員	清新会 松原啓治 議員	創造みらい 沢田国夫 議員	質問事項 ① 大野市へ企業誘致をするときの基準について ② 学校教育と家庭教育について ③ 産業振興と自然との共存について	質問者 頁 6頁
① 市長二期目の平成二十三年度当初予算の基本方針について ② 視覚障がい者の情報バリアフリーの推進について ③ 肺炎球菌のワクチンについて	① 第五次大野市総合計画基本構想について ② 国保行政等について ③ 介護保険について	① 大野市へ企業誘致をするときの基準について ② 学校教育と家庭教育について ③ 産業振興と自然との共存について	① 大野市へ企業誘致をするときの基準について ② 学校教育と家庭教育について ③ 産業振興と自然との共存について	① 市民力・地域力の醸成に ② 旧和泉村との合併から五年、今日時点の課題整理を求める	① 県による将来ビジョン・素案と大野市総合計画基本構想案に関して ② 昨年来続いていた主な流雪講の流量調査の結果について ③ ステーションと近隣の観光施設へのアクセス拡大において旧法務局建物の位置づけをどう考えているのか	8頁 7頁 7頁 6頁 6頁



一般質問
前田 政美 議員
 (新国会)

中心市街地活性化基本計画について(四三〇年祭以降)

質問 築城四三〇年祭を一過性のものとしなため来年度以降の取り組みの基本方針は。

答弁 来年度以降の二年間は、四三〇年祭を通じて芽生えた市民力や地域力を生かし、市民が越前おおのを盛り上げるイベントや行事などに積極的に参加し、自主的に参加してくれるものと期待している。さらに市としては、自主的に参加していただける支援も必要であり、商業振興基金・農業農村振興基金・地域振興基金を効果的に活用できる仕組みを構築し、応援できるような支援体制を整えたところであり、市民力や地域力のアップに活用していただきたいと考えている。

行政力と市民力のかかわりについて

質問 築城四三〇年祭にかかる今回の市民力の結集を、今後ほかの分野の取り組みにも反映させていくのか。またその基本的な考え方は。

答弁 人口減少と少子化・高齢化が急速に進み、市民ニーズが複雑化・多様化する一方で、地方の自主財源の確保が年々厳しさを増すことが予想される中、従来のように行政が主体となつて、あらゆる事業を実施していくことは困難になってきている状況にある。今後は、越前おおの地域づくり交付金事業やNPO等の公益活動団体との協働事業などを実施し、市民総参加型・協働型の市政運営の実現に向けた取り組みを行うこととしていくところである。



一般質問
高岡 和行 議員
(清新会)

予算編成について

質問 平成二十三年度の予算編成は、第五次大野市総合計画を踏まえて、どのような点に留意して当てるのか。

答弁 十年後の大野市の将来像を「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」と定め「人が元氣」「産業が元氣」「自然が元氣」「行財政改革」を構想実現のための柱として位置付けている。限られた財源を念頭に置いて、事業の効果とその重要度、市民要望の度合いなどを総合的に吟味し、優先度の高い事業には重点的に財源を配分するなどメリハリを付けて行う。

質問 公共物が多く建設され、その管理費増の推移は。

答弁 当市の経常収支比率は、平成十九年度が九六割、二十年度が九五割、二十一年度が九六割と高い水準で推移しており、この維持管理費用が影響を及ぼしているという点は否めない。職員一人一人が意識を持って取り組む。

雇用拡大について

質問 来春卒業予定者および近年の就労率推移はどうか。廃止される職業訓練センターの活用はどうか。また障害者雇用は。

答弁 地元就職率は増加しているが、大学等進学者の地元への就職率は一五割ほどと低い。職業訓練センターについては、国より無償譲渡を受け、離職者に役に立つ講座・研修を行っていきたい。障害者雇用拡大についても周知徹底の上、拡大を図りたい。

大野城築城四三〇年祭について

質問 大野城築城四三〇年祭終了後の大野市の基本コンセプトは。今後の事業展開はどうか。

答弁 次年度以降の交流人口の拡大を図る事業などに生かすため、今後は市民総参加型・協働型の事業運営をコンセプトに地域活性化を進めていくことが必要と考える。



岐阜県美濃市の「花みこし」(築城430年祭記念パレード)



一般質問
石塚 淳子 議員
(創造みらい)

民生委員・児童委員について

質問 民生委員・児童委員が職務を果たすためには、援助を必要としている人の情報の提供を受けることが重要である。各自治会や地域住民の生活支援を行う関係団体との連携は。

答弁 まずは福祉の重要性が増す中、地域の関係団体が協力し、役割を分担しながら活動することが必要であるので、市としても連携を取り合える土壌づくりをする。

健康づくりの推進について

質問 子宮頸がん、乳がんの無料クーポン券の利用状況と効果は。

答弁 平成二十一年度は、子宮頸がん検診は百八十人が受診し、受診率は一七・三割。乳がん検診は三百四十人が受診し、受診率は二五・七割であった。

効果については、子宮頸がん検診は、平成二十年度では、二十歳・二十五歳の受診者はいずれもゼロであったが、無料クーポン券が導入され

た二十一年度は、二十歳の方が十八人、二十五歳の方が二十八人であった。乳がん検診は、四十歳から六十歳までの五歳ごとの対象者は、平成二十年度では百十一人が受診、受診率は八・二割であった。クーポン対象の二十一年度は、三百四十人の受診で、受診率は二五・七割と、どちらの受診率も向上している。

質問 無料クーポンの対象者は五歳刻みで、今年度は二年目だが、今後の取り組みについては。

答弁 国において、平成二十三年度は本事業を継続実施するよう予算概算要求している。その後の取り組みについては、国の動きや他市の実施状況なども参考にしながら検討したい。

安全で安心な雪国づくりについて

質問 倒壊の恐れがある空き家、空き工場等の現状と対策は。

答弁 現在、市が把握している倒壊の恐れがある建物は市街地に八棟ある。今年度は、建物の保全管理や取り壊しについて指導した結果、四棟の建物が所有者により取り壊された。

今後定期的な状況の把握を行い、所有者に対して保全管理を求めていく。また国に対しては、行政が措置できる法制度の確立などを要望する。



一般質問
 榮 正夫 議員
 (日本共産党)

農業問題について

質問 農水省は、米の戸別所得保障モデル事業によって米の需給は均衡し、米価は安定するとしてきた。しかし、米価は九カ月連続で下落し、相対価格が史上最低を更新している。ペットボトルいっばいの白米で水より安い七十円から八十円が現状である。

「稲作と日本農業を守る」ため、地方自治体も傍観者的でなく、アクションを起こすべきではないか。

答弁 過剰米を主食用市場から隔離することを柱とする政府の緊急対策の早期の決定と市場への告知を求める全国農業協同組合中央会の提案は、水田農業中心の本市においても、農業者の経営の安定・確保を図る観点からも十分理解できる内容であると思っている。また確かに、米価が下落している「再生産費が賄えないではないか」等の価格の問題であるが、一自治体がどうこうするような問題ではなく、当然大事なことだが、生産者米価については当然国の方に要望・要請していきたい。

第五次大野市総合計画基本構想について

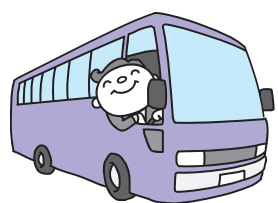
質問 素案によると十年後の大野市の将来像を「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」を目標に構想するとのことだが、これからの大野市の人口減少の時代にふさわしい基本計画が必要ではないか。そのために議会の機能も利用する考えはないか。

答弁 日本の総人口については、議員の指摘のとおり、増加から減少時代の歴史的転換に転じている。大野市の平成三十二年の将来人口推計は三万六千五百五十人となっている。努力目標を入れて十年後の人口を三万三千人とし、「ふれあい交流人口」を設定し三万八千人を想定している。十二月議会で構想案を審議していただくよう準備している。

まちなか循環バスの運行の変更について

質問 運行時間帯の変更と公共交通の将来の重要性について考えは。

答弁 公共交通の循環バスについては高齢者、学生などの移動手段として必要と考えている。



一般質問
 畑中 章男 議員
 (新国会)

国保会計について

質問 過去三年間の国保特別会計の決算状況を示した上で、今後の財政状況予測を聞きたい。

答弁 平成十九年度六百八十万円、二十年度一億千百万円、二十一年度六千五百万円の収支不足が続く、基金が本年度末には底をつき、今後約一億円以上の収支不足が見込まれ、保険税の引き上げは避けられない状況下にある。

質問 将来に持続可能な国保運営の在り方について、わが市の考え方を示せ。

答弁 早期の県単位における広域化が必要不可欠であり、県に対し積極的に取り組むよう要望している。

質問 過剰な受診の防止については。

答弁 重複受診・多受診傾向の方には保健師の面談や訪問による指導を実施。また医療費の適正化を推進するため「国保のてびき」の活用、かかりつけ医の推進などの啓発を行っている。

行政改革について

質問 市の博物館の管理運営について

問題が生じているようだ。貸し出したままの蘭学書の返還、鳥類の足跡化石を県より取り戻せ。

答弁 歴史的遺産が市外に流出することのないよう保護に取り組み、将来世代に継承していくように努める。

質問 まちなか循環バスの試験運行を費用対効果の面で再考してはどうか。

答弁 平成二十三年度末まで試験運行を継続していく。

地下水保全管理計画について

質問 二〇〇六年以降の取り組み状況を報告せよ。

答弁 水位観測や水質検査の実施、地下水汚染の浄化、冬季間の水田借り上げによる涵養対策、地盤高の観測による沈下量の状況把握に努め、目標達成に向けた施策を展開している。

質問 受益者負担の原則についてはどうなったか。

答弁 受益の範囲を設定することや協力金額、集める方法、出す・出さないの不公平などの問題があり、現在では困難と考えている。

質問 市民グループの水の会の提言書の中にある「新しい地下水源を生み出す政策」は実行したか。

答弁 市が直接かわかっていないので理解いただきたい。



一般質問

沢田 国夫 議員
(創造みらい)

県による将来ビジョンと大野市
総合計画素案に関して

質問 県による将来ビジョン素案と大野市の総合計画基本構想との整合性について。

答弁 現時点で県は、たつき台としてビジョンを発表したところでもあるが、大野市は本年中に十年後の大野のあるべき姿を示す予定であり、県に対しても施策の中で協力を求める。

質問 湧水復活と地下水の恒久利用に対しての市の対策と具体的施策の意気込みを聞きたい。

答弁 本年八月二十三日に大野市湧水文化再生検討委員会を立ち上げた。この委員会を通して本年度内に具体的な行動計画を策定したい。湧水文化を後世に残すことは市行政の使命と考えている。

質問 大野市民の水へのこだわりは強く、地下水を恒久的に利用するという独自のライフスタイルをブランド化するのも価値ある事だと思いませんか。

答弁 越前おおの総ブランド化の中に確立されていると認識している。

質問 大野市の子供たちの国際教育についてどのように考えるか。

答弁 国際交流を進めることや国際感覚を磨くことは、今日の社会情勢から見てもますます重要であり、積極的に取り組むべきと認識し、基本計画の中で国際感覚のある人づくりを施策の柱とするつもりである。

昨年来続いていた主な流雪溝の
流量調査の結果について

質問 主な流雪溝の流量調査の内容について聞きたい。

答弁 市街地の主な水路七十四カ所の定点で、一週間に四回程度水深の計測を実施している。

主な水路の間を通じた流量を把握し、異常時の対応や新たな流雪溝の可能性などを模索していきたい。

質問 この調査から、水路の流量マップを作り、住民間で情報の共有を図り、協力体制を確立してはどうか。

答弁 そういった考えはなかつたが、今後、調査結果を踏まえた上で判断したい。



まちなかの流雪溝



一般質問

松原 啓治 議員
(清新会)

学校教育と家庭教育について

質問 学校が休みのとき、学生たちの危機管理はどのように行われているのか。

答弁 休日や長期休暇中における児童生徒の安全管理については、基本的に保護者をお願いしている。ただ、学校から保護者に情報を伝達しなければならぬ場合には、電話による緊急連絡網を活用している。すべての小中学校では、学級単位や通学地区単位で緊急連絡網を作成し、自然災害や熊の出没、あるいは不審者等に関する情報をすべての家庭に迅速に伝達できるように危機管理体制を整えている。

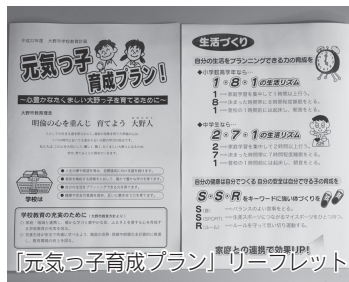
また長期休暇中においては、児童生徒や保護者に向けて「夏休みのくらし」や「冬休みのくらし」などのしおりを発行し、交通ルールの順守や外出時に危険から身を守ることになどについて注意を喚起している。

質問 家庭生活における児童生徒への指導はどのように実行されているのか。

答弁 各学校では、気持ちのよいいきつや規則正しい生活習慣が身につくように、家庭や地域の協力を得ながら指導に取り組んでいる。

教育委員会としても、各学校に「元気っ子育成プラン」のリーフレットを配布して、自分の生活をプランニングできる力の育成を図っている。例えば、小学校高学年になると「一・八・二」の生活リズム、すなわち一時間以上の家庭学習、八時間程度の睡眠時間、登校一時間前の起床などを家庭生活の中に組み込むよう呼び掛けている。中学生については「二・七・一」の生活リズムを呼び掛けている。

このように、学校ではさまざまな機会をとらえて家庭における児童生徒の指導に取り組んでいる。家庭は、児童生徒にとって最も身近な心のよりどころであり、子育てのための重要な役割を担っている。この中で、教育委員会としては、家庭教育がより効果を挙げられるものとなるよう支援をしていきたい。





一般質問

浦井 智治 議員
(日本共産党)

第五次大野市総合計画基本構想
について

質問 第四次総合計画（平成十一年から二十二年）では、最後の二十二年に、市の人口を四万人に想定していたが、実際は三万六千人になった。今後十年でさらに五千人減る予想だ。第五次総合計画では、人口減少を見込んだ計画にせよ。

答弁 人口減少はある程度やむを得ないと考えて計画を作っている。若者の定着のため企業誘致に努め、また市外からの交流人口の増加を目指して、人口減少に対応したい。

質問 市民アンケートでは、安心な保健・医療・福祉の充実したまちを望む答えが七割で一番多い。第五次総合計画では、まず第一に保健・医療・福祉の充実を図れ。

答弁 アンケートでは、保健・医療などの安心を求める要望が強い。一方で、市が今後も存続していくためには、産業の活性化のためにインフラ整備に力を入れていく必要がある。

国保行政等について

質問 国保税は、所得二百万円台で三十万円、四十万円と大変な負担だ。低所得者に対する減免制度はどうなっているか。実際安くなった人はいるか。

答弁 昨年七月の減免制度の見直しで、生活保護基準の一・三倍までの人を対象にしている。何人が相談はあったが、申請した人はいない。

質問 国保の一部負担金の減免基準をつくれ。

答弁 一部負担金の減免については、国より本年九月中旬に基準が示されるので、それに基づいて本市でも減免基準を制定する予定である。

介護保険について

質問 災害、低収入等による介護保険料の減免基準、減免された人数は。

答弁 災害で損害を受けた人は二〇割から全額、収入が著しく減った人は八割から五〇割を減免している。過去四年間で五人の方が減免されている。

質問 介護保険の準備基金が、現在三億千八百万円たまっている。保険料の値上げは中止せよ。

答弁 高齢者増や施設整備でお金がかかる。次回の改定では、準備基金を全額取り崩しても、介護保険料は四千二百円を上回る。



一般質問

藤堂 勝義 議員
(公明党)

市長に二期目の当初予算の基本方針について

質問 国のひも付き補助金を束ねて使途が自由な一括交付金にすれば、補助金総額を三割削減できる趣旨の主張があるが、どのように考えるか。

答弁 一括交付金により、地方での使いみちの自由度が高まることは重要であるが、むしろやる気のある自治体への配分にメリハリをつけることが大切である。また補助金額を圧縮させることは、公共事業の減少、福祉や教育の水準の低下につながり、地方経済を直撃するばかりではなく、国と地方の関係を駄目にする。

質問 平成二十三年度当初予算の基本方針は。

答弁 本市の当初予算は、市民の要望や要請等と「越前おおの元気プラン」の整合性を見極めた上で、重要度と優先順位を明らかにし、予算に反映させるかどうかの検討を行う。市長の政治的責任において「越前おおの元気プラン」の施策を確実に推進するための

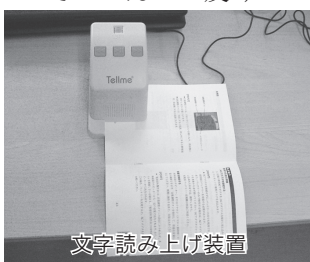
具体化した取り組みを予算に反映し、今後も市政発展に努力する。

視覚障がい者の情報バリアフリー
推進について

質問 視覚障害者用文字読み上げ装置の整備状況について聞きたい。

答弁 平成十九年度に国の補助を受け、視覚障害者用文字読み上げ装置一台を購入し、大野市社会福祉協議会に設置している。

しかし「音声コード」が普及されていないことから、ほとんど利用されていないのが実情である。



肺炎球菌ワクチンについて

質問 肺炎の原因となる肺炎球菌のワクチン接種助成の現状は。

答弁 平成二十年度の市内の肺炎死亡者は五十六人で、そのうち五十五人が六十五歳以上の高齢者となっている。平成二十二年三月の国の調査では、肺炎球菌ワクチンの助成を行っている自治体は全国で三百二十七市区町村、その割合は一八・八割。県内では越前町のみとなっている。本市においては、国や他市の状況を注視し、今後検討したい。



一般質問
新家 竹雄 議員
(日本共産党)

市民力・地域力の醸成について

質問 「市民が主人公」の視点に立ち、市政の計画・課題・問題点まで公開する必要がある。しかし諸計画五十七のうちホームページに十七計画しか掲載されておらず、進捗状況が分からない。市民の協力を得るためにも積極的に市政情報の公開を進めるとともに、ホームページの充実を求めたい。また「手前味噌」との批判を受けないよう、事業評価にも市民参加を進めてはどうか。

答弁 諸計画は、庁内の意識を統一し公開するように努める。進捗状況は、担当課では把握し、予算付けの際に計画との整合性を確認し管理している。ホームページの充実、使いやすさも含めて検討している。
事業評価の市民参加は、行革の進捗状況を各界各層の代表で構成する行政改革推進委員会に事務事業の評価結果を示し意見をいただいているので、市民参加の考えはない。

旧和泉村との合併から五年、今日時点の課題整理を求め

質問 旧和泉村との合併時、合併時の財政措置を活用して十年計画の「新しいまちづくり計画」および五年計画の「過疎地域自立促進計画」が策定された。学校や清掃センター等の取り壊しは行われたが、和泉地域の将来に係る核になる事業、例えば大野市唯一の温泉「平成の湯」は開設から二十年経過し、施設としてもさまざまな苦情が寄せられているが、改築計画は進んでいない。

限界集落・消滅集落をこれ以上発生させないためにも、また住民の不安に答えるためにも、十年計画の中間年である今、計画の中間総括を行い、今後の和泉地域の振興策について強烈なメッセージを発信するべきだと考えるがどうか。
答弁 合併後の地域振興策について、「あまり進捗していないのではないのか」という意見があるのは事実。計画の実施は、重要度や緊急性、経済情勢や財政状況を考慮し、合併特例債を活用し進めるものであるが、計画のすべては実施できない。和泉地区の方々も自分たちでどんなことができるかの提案をしていただき、行政と擦り合わせて進めていきたい。

請願

▼大野市の障害福祉施策についての請願
提出日 平成二十二年八月十七日
提出者 奥越地区家族会
会長 森広茂治
紹介議員 榮 正夫議員
審議結果 不採択

陳情

▼入札参加条件への配管技能士の位置付け等について
提出日 平成二十二年八月十日
提出者 大野市管工事業協同組合
理事長 石田重隆
審議結果 趣旨採択

▼地方財政の充実・強化を求める意見書採択について
提出日 平成二十二年八月三十日
提出者 自治労福井県本部
執行委員長 酒井里巳
審議結果 継続審査

▼米価の大暴落に歯止めをかけるための陳情
提出日 平成二十二年九月六日
提出者 福井県農民運動連合会
会長 玉村正夫
審議結果 趣旨採択

▼工事内容による電気工事としての発注について (七月継続審査分)
提出日 平成二十二年三月二日
提出者 大野電業協会会長前田豊次
審議結果 継続審査

▼人権侵害救済法の成立に反対する意見書の提出に関する陳情書 (七月継続審査分)
提出日 平成二十二年六月三十日
提出者 日本の子供の未来を・守る会
福井支部 荒井万記子
審議結果 継続審査

▼子ども手当の見直しを求める意見書の提出に関する陳情書 (七月継続審査分)
提出日 平成二十二年六月三十日
提出者 日本の子供の未来を・守る会
福井支部 荒井万記子
審議結果 採択

▼母子家庭等(母子、父子家庭)の高校就学奨励事業の適用追加について (七月継続審査分)
提出日 平成二十二年七月九日
提出者 大野市母子寡婦福祉連合会
会長 梅沢伴子
審議結果 継続審査

平成22年9月第370回定例会 議案等の審議結果および各議員表決

(議決結果に賛成○、反対×。欠席、除斥等による不参加-。議長(砂子三郎氏)は採決に加わらないので「/」で表示)

議案番号・議案名等		議員名(議席番号順)	議決結果	新家竹雄	前田政美	谷口治衛	石塚淳子	沢田国夫	藤堂勝義	川端義秀	宮澤秀樹	松原啓治	山本鐵夫	島口敏榮	高岡和行	松田信子	浦井智治	本田章	常見悦郎	松井治男	畑中章男	砂子三郎	榮正夫	
市長提出議案	53 平成22年度大野市一般会計補正予算(第2号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	54 平成22年度大野市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	55 平成22年度大野市老人保健特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	56 平成22年度大野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	57 平成22年度大野市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	58 平成22年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	59 平成22年度大野市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	60 平成22年度大野市下水道事業特別会計補正予算(第2号)案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	61 大野市中山間地域農村活性化施設設置条例の全部を改正する条例案		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	62 大野市道路線の認定及び廃止について		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	63 高規格救急自動車売買契約の締結について		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	64 平成21年度大野市歳入歳出決算認定について		継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	65 平成21年度大野市水道事業会計の決算認定について		継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
	66 人権擁護委員候補者の推薦について		同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○
請願	4 大野市の障害福祉施策についての請願		不採択	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	/	×	
陳情	9 入札参加条件への配管技能士の位置付け等について		趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	
	10 地方財政の充実・強化を求める意見書採択について		継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	
	11 米価の大暴落に歯止めをかけるための陳情		趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	
	継続3 工事内容による電気工事としての発注について		継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	
	継続6 人権侵害救済法の成立に反対する意見書の提出に関する陳情書		継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	
継続7 子ども手当の見直しを求める意見書の提出に関する陳情書		採択	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	/	×		
継続8 母子家庭等(母子、父子家庭)の高校就学奨励事業の適用追加について		継続審査	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	/	×		

常任委員会審査

市長から提出された議案等を審査するため、各委員会が開催されました。委員会における主な質疑等の要旨は次のとおりです。



産経建設

Q 本年度は、観光出向宣伝にどれくらい出向しているのか。

A 「アタック九〇」を掲げ、九十九社への出向宣伝を目標に取り組んでいる。九月十五日現在で、すでに七十九社へ出向しており、今後も目標達成に向けて取り組む。

Q 国から職業訓練センターの譲渡を受ける意向とのことであるが、どのように運営していくつもりか。

A これまで国・県から委託を受けて、市が行っていた離職者等に向けた講座については、今後も引き続き実施できるように、国・県に要請していきたい。

市主催の講座は、これまでパソコン関係が中心であったが、今後は、広く情報を集め、より離職者や就職に役立つような講座を実施しなければならぬと考えている。

Q 穴馬スイートコーンの生産者数や作付面積を増やす計画はあるのか。

A 生産者数と作付面積はここ数年横ばいの状態である。本市の特産作物でもあるので、何らかの方策を取っていき



民生環境

Q イベントキッズナーサリー事業の内容は。

A 子育て中の保護者が、気軽に講演会を聞いたり、イベントを楽しんだりできる環境づくりを目的に、ベビーサークル、おむつ交換台、布団、絵本などの備品整備を行うものである。学びの里「めいりん」において整備予定。

Q 福井社会保険病院の存続について

A 去る八月六日に、RFO（独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構）の設置期限を、平成二十四年九月三十日まで二年間延長する議員立法が成立した。当面はそのまま維持継続されることとなる。

Q 父子に対する児童扶養手当の申請について。

A 児童扶養手当法が改正され、本年八月一日から父子家庭にも児童扶養手当が支給されることとなった。十一月末までに申請すれば、八月まで遡って受給対象となるので、機会をとらえて申請について周知を図っている。

総務文教

Q 立命館大学生が和泉地区で活性化に向けた実習を行ったが、報告会での主な提案は。

A アンケートの実施結果等について、短期間にもかかわらず学生なりに感じるところをまとめて報告いただいた。主なものとして、九頭竜湖駅周辺にある施設が分かりにくいので、案内板を設置してはどうかとの提案があったので、今後、関係課と検討していきたい。



請願書・陳情書の提出方法

どなたでも、市政についての要望などを、請願書や陳情書として市議会に提出することができます。請願書・陳情書ともに様式に特別の定めはありません。定例会開会日の午後5時までに提出しますと、その定例会で審議することとなっています。

次の事項を記載して、持参の上、提出してください。

- ① 請願・陳情の趣旨（具体的に）
- ② 提出年月日、提出者の住所・氏名（押印必要）
- ③ 請願書の場合は、紹介議員の署名（1人でもよい）

※詳しくは議会事務局にお問い合わせください。（66-1111 内線 253）

Q 大学生合宿で訪れた学生の数と評判は。

A スポーツ課所管施設には、エキサイト広場総合体育施設など三カ所あるが、四、五千人の方に来ていただいております。評判も大変いいと聞いています。

Q 情報公開でのコピー代二十円（単色刷り、一枚）を引き下げる考えはないのか。

A 他市の状況等を調査しており、十円にする方向で協議中である。

常任委員会

行政視察報告

経 産 建 設

五月十八日から二十日にかけて、三重県名張市の「市営住宅建替等整備」「老朽化した市営住宅の整備方針」、愛知県みよし市の「三好いじやんまつり」「さんさんバス（市コミュニティバス）の運営」などについて視察を行いました。

名張市では、平成十八年に、老朽化した夏見市営住宅三十戸の建て替えに当たり、提案型で設計・施工を一括して発注する「プロポーザル・デザインビルド方式」を導入しました。民間の優れた企画力・技術力等を活用し、短期間に低価格な住宅を建設することを目的とした方式で、公募に提案してきた業者の中から、選定委員会において「総合評価型事業者選定方式」により最優秀提案者が特定され、市はその事業者と契約を締結しました。



(名張市)市営住宅

この方式により、総事業費は、国が示す標準価格よりも大幅に削減することができたとのこと。

また名張市で平成二十一年十月に策定された「老朽化した市営住宅の整備方針」では、今後の市営住宅の整備方針としては「民間住宅等の借上げ方式」を導入することとし、事業者が所有している既存賃貸住宅を借り上げ、市営住宅として提供する。ことで、建設費等の多額の初期投資やランニングコストの削減、効率的な住宅供給、併せて供給過多といわれる民間賃貸住宅の利用拡大などを図ることとしました。これにより、家賃設定を低く抑えることができるという入居者にとつてのメリットも生まれます。

みよし市で毎年八月に開催される「三好いじやんまつり」では、行政区、職場などを単位として二十人以上が一グループを結成し、お揃いの衣装で「いじやん踊り」を披露し、併せてコンテストが行われます。二十一年度は四十五グループ、約三千二百人が踊りに参加し、見物者は三万人にのぼったとのこと。みよしの夏を締めくくる夏の風物詩として、市内外の人たちから大変親しまれています。

踊りのマンネリ化や設営費・警備費等への多額な費用、参加グループ

が多すぎて会場が非常に手狭なことなどが課題とのこと。

民 生 環 境

五月十七日から十九日にかけて、埼玉県春日部市の「込まない窓口の取り組み」、東京都大田区の「地域力を生かしたまちづくり」、東京都台東区の「公設民営の認定こども園」について視察を行いました。



(春日部市)市役所窓口

春日部市では「市民目線」で「分かりやすく利用しやすい」窓口整備を目指し、業務内容によって「クイックサービス」「まとめてサービス」と窓口を分けることにより、混雑解消と待ち時間短縮が図られています。

大田区の「地域力応援基金助成事業」は、区民や事業者からの寄付金を原資に区民活動を応援し、地域力醸成と区と住民とのパートナーシップの構築を目指しているもので、その助成事業は「スタートアップ助成」「ステップアップ助成」「ジャンプアップ助成」の三つの助成から成っています。助成は、書類審査の後、面接または公開プレゼンテーションを経て決定するとの

ことです。

台東区の認定こども園は、幼稚園・保育園のそれぞれの良さを生かして、就学前のゼロ歳から五歳児まで一貫した幼児教育・保育を行う東京都初めての公設民営の施設です。統廃合による旧小学校校舎を使用しており、広々とした園内で伸び伸びと園生活を送っている子供たちの姿が印象的でした。

※その他の委員会視察はまだ実施されていないため、次回号で報告します。

人 事 案 件

▼人権擁護委員候補者に、上村氏の推薦に同意

人権擁護委員候補者に、上村鈴子氏（堂本・新任）を推薦することに同意しました。

議 会 人 事

平成二十一年度大野市各会計の決算を審査するため、九月定例会において決算特別委員会が設置され、次の委員が選任されました。

- ◎谷口治衛 ○川端義秀
 - 沢田国夫 松原啓治
 - 島口敏榮 松田信子
 - 畑中章男 榮 正夫
- （◎は委員長、○は副委員長）

委員会報告

各委員会における協議事項・意見・要望等の趣旨について、それぞれの委員長
の報告は次のとおりです。

●産経建設常任委員会

○和泉地区の振興について

和泉地域審議会が、地区の将来像を描くための核となる組織となり、そこでの論議に地区住民の意向が十分に反映されるよう、審議会での審議の内容など、地区の現状と課題などを積極的に公開し、住民が参画しやすい環境づくり
に努められた。

○大野産そばの振興について

そばまつりについて、越前
おおのブランドとして、大野
産そばの
ネームバ
リューをさ
らに高める
ため、そば
の最もおい
しい旬な時
期での開催
など、運営
について再
考願いたい。



「そばまつり」

●民生環境常任委員会

○地下水の保全について

湧水地などの地下水にかかる
施設整備については、施設を整
備する部局と地下水の状況を把
握する環境衛生課が連携して取
り組まれた。

○所在不明高齢者について

全国で百歳以上の高齢者の
所在不明が相次いで発覚してい
る中、本市では、住民登録がな
いの戸籍が残っている事例があ
ったとのことである。住民基
本台帳には記載がないため、年
金支給などに影響はないとのこ
とだが、適正に対応されたい。

●総務文教常任委員会

○教育行政について

県は、現大野東高校校舎を活
用して来年四月に開校予定の総
合産業高校の校名を「奥越明成
高校」に決定したが、本市には
事前説明が全くなく、突然の発
表であった。今後、このような
ことがないよう県の真摯な対応
を求めるとともに、市も、県と
の説明・協議等の機会を設け
て、密接に連携を図られたい。

○荒島岳の登山道について

荒島岳の登山者に滑落などへ
の注意を喚起する看板等を設置
するなど、日本百名山の名にふ
さわしい、安全で安心な登山道
となるよう整備されたい。

●中部縦貫自動車道・国道 一五八号整備促進特別委員会

中部縦貫自動車道永平寺大野
道路および大野油坂道路、国道
一五八号大野・福井間、国道
一五七号大野バイパス、いずれ
の事業も所期の目的達成のため
積極的に支
援をし、関
係機関に対
し要望活動
を行って
いくことで意
見の一致を
見た。



●議会等改革特別委員会

これまでに計画どおりに改革
できなかった事項、計画未達成
項目等について、さらなる検証
を行い、原因を追究し、第六次
行政改革、第五次総合計画に生
かして、効率的・効果的な行政
運営を推進されたい。
また市議会改選で議員定数が
減員となった後の常任委員会の
構成については、今後とも議論
を進める。

議 会 日 誌

◆8月

30日 会派代表者会議、議会運営委員会、議員全員協議会

◆9月

6日～24日 第370回定例市議会

7日 国道158号整備促進要望活動(福井県庁)

27日 中部縦貫自動車道早期整備要望活動
(福井、大阪、東京)

議会だより編集委員会視察(石川県内灘町)

◆10月

12日 議会等改革特別委員会

18日 福井県市議会議長会 中央要望活動(東京都)

18日～22日 決算特別委員会

25日 会派代表者会議、議会運営委員会、議員全員協議会



委員
浦松川 沢
井田 端 田
智信 義 国
治子 秀 夫

議会だより編集委員会

市議会を傍聴しませんか

本会議は、どなたでも傍聴する
ことができます。

傍聴を希望される方は、受け付
けを済ませてから、傍聴席にお入
りください。

詳しくは議会事務局にお問い合わせ
ください。

(0779-66-1111 内線 253)

編 集 後 記

今から五十年前前にアメリ
カ大統領ケネディーは言
いました。「国が自分に何を
してくれるのかを問うのでは
なく、自分が国に何をすべき
だ」と。まさに今、大野市は
この状況下にあるといつも
も過言ではありません。市
民挙げての築城四三〇年祭
のクライマックスです。議
員はもちろんのこと、市民
の皆さまの大きな力を
発揮し、最後まで頑張り
ましょう。